

令和7年度体力づくり推進計画

<全体計画>

東広島市立もみじ小学校

達成目標

- 体育科授業において、多様な運動を経験することを通して、児童の巧緻性を育成する。
- 様々な行事において、体を動かす楽しさを味わわせ、運動好きな児童を育成する。
- 規則正しい生活習慣を身に付けさせる。
- 新体力テストの全国平均を上回る項目数を市平均数より多くする。

学 校 の 状 況

- ・平成27年4月、自立支援施設に併設された学校である。
- ・自然あふれる環境の中で、学校教育目標「自らを律し、自ら行動する人間の育成 ～自律と自立～」と定め、「育ち直し・学び直し」の理念のもと、学校の教職員と学園職員が連携を図り、協力して指導に当たっている。

児童生徒の運動・生活習慣の実態

- ・児童は、家庭寮での規則正しい生活を送っている。
- ・体全体を使う全身運動となるように作業等を行っている。
- ・中学生と運動部活動を一緒に行うことで運動習慣を付けている。

広島県体力・運動能力、運動習慣等調査結果との比較から

- ・全体的に数値が広島県平均よりも低いことが見られる。
- ・学園に在籍している期間が短い生徒ほど数値が低いことが分かる。
- ・検査実施生徒の人数が少ないこともあり、少人数でも実施種目の数値が低い場合は学校平均の数値も極端に低くなる傾向が見られる。

実態把握

児童生徒の実態や体力・運動能力調査等から明らかになった課題

- ・入園当初の運動能力は県平均に比較して低いが、入園期間の長い生徒は全体的に県平均を上回る傾向がある。
- ・日常的に運動に親しむ態度を育て、運動習慣を付けていくことが課題となる。
- ・本校入学前には、不規則な生活をしていた生徒が多く、睡眠不足、運動不足の生徒も多くおり、「睡眠」「食事」「運動」のバランスのとれた生活を送れるよう指導する必要がある。
- ・巧緻性の低い生徒も多くみられるため、効率的に動けるようわかりやすく体の動かし方を学習させていく必要がある。

課題解決に向けた取組事項

- ①体育科での取組
 - ・体づくり運動の授業を中心に、日頃経験しない動きを意図的に行わせるようにし、基礎的な運動感覚を身に付けさせる。
- ②学園行事との連携
 - ・野球大会やバレーボール大会、マラソン大会へ向けた取組を積極的に行うことにより、運動する意欲を高める。
- ③食教育の推進（学園職員との連携）
 - ・食事や睡眠を中心に自分の生活習慣を見直すことを通して自分の健康実態に関心をもたせるようにする。
 - ・年1回の食育授業を行い、生活を改善するための啓発を積極的に行う。

期待される効果

- ・日常的に体を動かし、運動が好きな児童が増える。
- ・外遊びが活発になり、運動量が確保されて児童の体力向上につながる。
- ・体を動かす時間の増加により、十分な睡眠時間が確保できたり、食事を摂取することの促進も期待できたりして、生活習慣の見直しにつながる。

体 制

- ・体育主任と学園教育主任で「体力向上推進チーム」を構成する。メンバーは、体育主任、養護教諭、学園教育主任、部活動担当代表で構成する。
- ・週1回、部活動担当者会議を開催する。

推進組織

令和7年度体力づくり推進計画 <年間指導計画>

東広島市立もみじ小学校

達成目標

- 体育科授業において、多様な運動を経験することを通して、児童の巧緻性を育成する。
- 様々な行事において、体を動かす楽しさを味わわせ、運動好きな児童を育成する。
- 規則正しい生活習慣を身に付けさせる。
- 新体力テストの全国平均を上回る項目数を市平均数より多くする。

